

～男女共同参画社会を考える情報コーナー～

あなたと いっしょに・・・ With you

第3回

「自分らしく生きられる社会をめざして」

これからは男性も女性も、仕事だけでなく、家族の一員として家庭生活を担いながら、共にあゆんでいく時代です。そのためには男性・女性を問わず、仕事の能力だけでなく、生活者としての能力、子育てや家庭経営の能力をもっと高める必要があるといえるでしょう。もし男性も女性と同様に、妊娠することが出来て、結婚後は出産と育児を職業と両立させていかなければならないとしたら、仕事を断念しなければならない人が出てくるかもしれません。

「男女共同参画社会基本法」が施行されたことで、女性だけでなく男性にとっても、仕事と家庭を両立することができるような社会システムが整えられつつあります。けれども、それを活用する個人の意識が変わらなければ、せっかくのシステムも十分に生かすことが出来ません。仮に生活者としての能力が十分あっても、現在のような“働き方”が改善されない限り、男性にとっても女性にとってもゆとりの時間は生まれません。

知らず知らずのうちにすりこまれた概念をもう一度見直し、真に個人が自分らしく生きられる社会とはどういうものか、考えていきたいと思えます。

「僕も人並みに家庭を持つたけど、仕事が忙しくて思うように妻や子と過ごす時間がなくて。何のために結婚したのかと思うことがあるぜ。結婚しない人が増えていくのも、メリットを感じないとか、束縛されたくないからだよ。」

「僕、結婚したいんだけど家庭ってそんなもんですか。」

「まだいいぞ。うちなんかテレビ見たまま知らんぶりだ。」

「理想だよな。でも残業多いし、仕事から帰れば子どもは寝てるし、カミさんは機嫌悪いし...。」

「子育てしない男を父親とは呼ばない」というポスター見ましたか？ かつこいいつすよね。」

登場人物

- 28才 2児のパパ
- 39才 独身
- 52才 課長
- 22才 新入社員

居酒屋はらのへ
うみねこ会社の
アフターファイブ編

「これってどう思いますか？」

結婚は皆がしているから、周りからの圧力ですか？



チェックバード
「シーガルちゃん」





「君は長男だろ、親の面倒見なくていいのか？」



「僕は自分の思ったように生きますよ。好きな女性とは何でも話し合っつて、奥さんが世帯主でも、夫婦別姓でも構わない。育児休業は必ず取るし親との同居はしない。」



「僕もそつなるのかなあ。お先真っ暗だな。」



「ちょっと待て。確かに子どもはかわいいし家庭も大切だ。でも現実はどうにもならないだろう。ワシらの年になると、教育費だ、家のローンだつて。会社では板挟みの中間管理職、毎日をこなすのが精一杯でクタクタだ。たまに早く帰つても妻と会話もはずまないし。」



「労働時間を短くして、家でゆとりを持てるようにして欲しいなあ。」



「結婚つんぬんより、働き方に疑問を持つちゃいますよ。休日出勤している人をあいつはよくやっているなんて聞くけど、僕はそう思いません。そんな事じゃ、家庭と仕事の両立なんて無理、無理、育児どころじゃないですよ。」

会社って長時間働く人を「熱心だ」という発想がありませんか？



「当然ですよ。子どももの時から自分の事は自分でするようにしつけられてきましたから。それに日本人は働き過ぎですよ。均等法にしても今の男性の働き方に合わせるつて事じゃないんですけどね。」



「君は出来るのか？」



「ぜんぜん。夫婦だからこそ協力し合つんじゃないですか。経済力あつたつて自分の事何にも出来なきや離婚されちゃいますよ。」



「何を言つてるんだ。男がオムツを換えたり料理をするのか？女房のパンツを干しているのを人に見られたら情けないじゃないか。」



「日本つて男中心の社会でどうも生きづらい。女は家庭、男は仕事つて考えの人、多いし。」



「そんな事言つたつて。」



「ちょっと待つて下さいよ。親の面倒を見るのは僕だけの問題じゃないでしょう。親のことは誰だつて心配だけど、長男だけが親の面倒をみるなんて法律で決まつてないでしょう。」

「男は仕事一筋のワンパターの男性が多いですよね。」



育児・介護は女性がするものですか？



今の世の中、少子化で長男長女ばかりつて、男の子が少ないのでしょつて。」



「モヤモヤ〜ん」とは言いながら「ワシもこれまで、仕事一筋で家のことは女房に任せつきりにしてきたなあ。みんな何も言わないけど、良好な関係とはいえないな。無視されているよなさみしさもあるし...」このままじゃいかな、どうにかしなければ。今日は早く帰つて女房と話でもしてみるか。」



（何が男女共同うんぬんだ。今さら...。プツプツ）」



「それつて『広報はちのへ』の特集でやつてる男女共同参画社合つてやつたな。いいなあ。もう一杯飲めよ。」



「君つてこれまでの『男らしさ』つていつ重荷から完全に自分を解放しているつていつか、新鮮でつらやましいよ。」



「男も家庭に女も社会にという意識つて大切ですよ。その人らしく、自分らしく暮らしていつとする事が豊かな人生だと僕は信じているんですよ。」



「そういえば、一生懸命やつているのに不景気、リストラ。いったい僕は何のために働いているんだらう。」



ジェンダーチエツウ

～生活編～

女性も男性も共に家事を担い、協力して子育てをするようになれば、精神的にも時間的にも生活のゆとりが生まれてくることでしょう。夫婦だけでなく家族全員が協力し合えば、さらに一人ひとりの負担は軽くなっていきます。

生活者としての能力は今、男性だけに求められるものではなくってきていると言えるでしょう。大人も子どもも、家族を構成する一員として協力し合う責任を分かち合えば一人ひとりのゆとりはもっともっと広がるはずで。

男の子、女の子にかかわらず、小さいころから生活者としての能力を身につけていくことはとても大切なことです。自分のことは自分で出来る、21世紀の男性、女性に育てるために身近な家族をチェックしてみましょう。



生活の基本テクニック

「**」**が「**x**」でチェックしてみてください。

- ・本を見ないで作れる料理が5種類はある。
- ・食事の後始末は自分でする。
- ・ボタン付け、アイロンかけぐらいは出来る。
- ・ごみの出し方を知っている。
- ・自分の服は自分で買う。
- ・健康保険証や印鑑の置き場所を覚えている。
- ・町内会の回覧は必ず目を通す。
- ・配偶者の友人達と気軽に話せる。
- ・夫婦の会話が一日30分以上ある。
- ・夫婦げんかしても自分から仲直りができる。
- ・子どもの話には真面目に耳を貸す。
- ・老後は子どもには頼らないつもりだ。

21世紀順応型（「**」**が12～9の人）



・あなたは生活の達人。目の前に来ている21世紀の時代の先駆者です。
あなたの持っている生活術をこれからの子どもたちに伝授していけば、21世紀は家族みんなが住み心地のよい家庭が増えていくはずで。

発展途上型（「**」**が8～5の人）



・家事、育児はあなたにとってまだまだ未開拓の分野。考えようによっては、スペシャリストのタマゴかもしれません。世の中の目なんか気にせずに興味を持ってみれば、案外ハマってしまうタイプかも。善は急げ！ 時代があなたを呼んでいる！！

時代逆行埋没型（「**」**が4～0の人）



・誰の引き取り手もなく置き去りにされそうなあなた。このままでは埋没間違いなし。
本当にそれでいいんですか？ 知りませんよ。どうなっても。

キーワード

性別役割分担

「男は仕事、女は家庭」というように、性別によって役割を限定したり固定的にとらえることをいいます。

これからは、「男だから、女だから」と性別にとらわれることなく、それぞれに個性と能力を持ったひとりの人間として、多様な生き方を選択できるようにすることが必要です。

アンパイドワーク (unpaid work)

家事、育児など報酬に還元されない労働のこと。これらの労働は社会的な評価をされない労働として、価値の低いものとみなされてきました。そしてこの労働を担うのはほとんどが女性であり、それが女性の労働全般への評価ともなり、女性の経済力の弱さと共に女性問題となっています。

仕事が楽しくなった。今までは、同僚や上司に、セクハラのような事もたくさん言われました。それがなくなり仕事の評価も、適性になったように思います。
40歳 会社員

仕事を探すのが、大変。今までは、女性向けの求人が結構あったのですが、最近は男女の区別がなくなり、経験のないわたしには、不利です。
21歳 アルバイト

わたしの

はなし

も聞いて



男女共同参画について、
色々な制度が整備されてきています。
あなたの生活に役立つことがありましたか？

4年前、出産のために仕事は辞めざるをえませんでした。2年前の時は育児休業を交互に夫婦で取ることができ、それを機に主人が家事育児に積極的になりました。
34歳 会社員

私には全然関係ありません。子供が3人いて、なにかと忙しいのに主人はしらんぷり。私だって休みたいのに、世の中の整備よりも、今は亭主をなんとかしたいわ。
38歳 主婦

お知らせ

平成11年4月1日から「男女共同参画社会推進事業」を、教育委員会女性青少年課から、新たに企画部企画調整課に男女共同参画室を設置して担当していくことになりました。

当市では、平成8年に「男女共同参画社会をめざすはちのへプラン」を策定し、この情報誌「With You」をはじめ、さまざまな施策を「はちのへプラン」に基づいて実施しています。

また、4月からは、「改正労働基準法」および「改正男女雇用機会均等法」が、6月からは「男女共同参画社会基本法」が施行されており、私たちを取り巻く環境は変わりつつあります。

少子高齢化等による社会構造の転換期にある今、性別による固定的な役割分担意識（男だから、女だから）等の解消により、すべての人がお互いを尊重し合える社会を目指す時期にきていると言えるでしょう。

編集後記

新しい部署での第3回「With You」。周りの新しいスタッフとのやりとりも和やかに、新鮮な気持ちで取り組んでみました。男女共同参画社会基本法が成立し、生活者としての男性の役割も求められてきています。男性の置かれている状況をもう一度見つめなおしてみました。

皆さんはどうお思いになりましたか？

この特集記事は一般公募で選ばれた4人の市民のみなさんが編集しています。

お問い合わせ 企画調整課 男女共同参画室 内線485



編集スタッフ
松橋いく子さん
工藤 伸明さん
田向 令子さん
滝谷 淳子さん